

人はそれぞれ、いろいろな考え方を
持っています。自分の意思に
反して周りの目を重視した言動を
とったり、自分の考えを他人に押し
つけたりしてしまうことがあります。
このことは、差別に直面し
たときにも「差別はいけないが、
世間がそうしているから」といっ
た意識を生み出します。

かつて「赤信号、みんなで渡れば
怖くない」と言って笑いを集めた
コントがありました。この言葉
は人の心理の一面をついていると
いえます。一人ですることにはリス
クがありますが、みんなですると
なると、気分的に楽になり、ルー
ルだと分かっているだけでも、大勢の側
に居るといふ安心感から罪の意識
や関心が薄らいでしまうのです。
それは文字通り、自分で考え判断
することを放棄し、責任を逃れる

行動と言えます。

これが単に、お笑いの世界の話に留ま
っているうちはよいのですが、現実
においては人権問題につながる場合があ
ります。世間体を気にするあまり、行
動の正しさよりも周囲への同調を優先
した言動をとったり、考えの違う人を
認めず排除したりするという人権侵害
に広く結びついてしまうのです。

「他の人がそうしているから」という
ことなかれ主義は、差別を助長してし
まいます。

わたしたちの周りには同和問題をはじ
め、女性や子ども、高齢者、障がい
のある人、外国人に対する偏見や差別な
ど、さまざまな人権問題が存在します。
人権問題では「ほかの人が皆そうして
いる」ということに自分の考えや行動
が流され、差別する側になるのではな
く、差別をなくすために主体的に考え
る習慣を身につけたいものです。全て

の人が生活しやすい社会をどうつくっ
ていくのか、みんなで考え、行動し、
変えていくことが、今私たち一人ひと
りに求められているのではないでしょ
うか。

